

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

地域から信頼され必要とされる「地域に根ざした身近な府立高校」づくりのため「南河内の星」すなわち地域のリーダーを育てる学校づくりを行う。その基礎となる生徒育成目標として「何事にもあきらめずに自信を持って生き、人としての行うべき義務、主張する権利を理解した善良な市民として活躍できる生徒の育成を図る」を掲げながら、互いの意志を尊重しあう風土を醸成することを基本として心の絆を強めあい、互いを尊重できる良好なコミュニケーションを育て、学び合い高め合う関係を構築する。その上で、すべての生徒に以下の「心と態度と力」を身につけさせる。

- (1) 健やかな体と豊かな心を育てる。
- (2) 学ぶ喜びと将来への希望を持たせ、本来自分が持つ力を発揮する態度を養う。
- (3) 反省と克己に基づく自己教育力を育成し、自己選択・自己決定ができる力を向上させる。
- (4) 地域の歴史、自然、文化に学び郷土を愛する力を付ける。
- (5) 郷土愛を醸成した上で、世界に通じる人材を育成する。特に、国際理解教育に力点を置いていく。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成(勉強がわかる喜びの育成)

(1) 生徒の基礎学力を向上させる

- ① 「分る授業」・「楽しい授業を」実現するため、習熟度別少人数授業を積極的に展開し、小・中学校でのつまづきを回復し、基礎学力の充実を図り、自ら学ぶ意欲を育てる。
- ② 公開授業や研究授業などの授業力向上研修を積極的に展開し、授業の質と教員の授業力の向上に努める。
- ③ ICT 機器を活用し、生徒が意欲的に取り組むことのできる授業改善に取り組む。書画カメラ、タブレット端末などを活用しながら新しい授業形態を導入(学び合い協同学習の導入)する。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた教育課程を編成する。

- ① 難関私立四年制(産近甲龍)大学進学希望者を対象に、特別授業を実施する。(5名の入学をめざしていく)
 - ② 看護・医療系進学希望者が増加している中、それに対応した教育課程の編成を行う。
 - ③ 三年間の総合学習のなかで「シチズン教育」「郷土学」を導入し体験的な学習や自己探求型学習を導入する。
 - ④ 「特進コース」「看護医療コース」「郷土市民(シチズン)コース」など生徒の多様な進路希望に対応するコース設置を具体化させる。
- 以上を受けて将来の長野北高校を考える上でコース制設置に向けた準備委員会を設置する。

* 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を2年間で80%に引き上げる。

2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ。

(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。

- ① 地域と連携したボランティア活動(クリーンキャンペーンやあいさつ運動)を通して、社会の一員としての自覚を養い、規範意識の育成に努める。
 - ② 時間を守ることの大切さを徹底して指導し、欠席・遅刻・早退を減少させる。
 - ③ 通学時の安全確保のため、正門・通用門及び校外においても毎日交通安全指導を行う。
- * 欠席者数・遅刻者数を毎年2割ずつ減少させ2年後には半減させる。

(2) クラブ活動の活性化を図り、その成果を校外へ発信することにより、自己肯定感を養い、自立的発達を促す。

- ① 部活動加入率を上げるため、新入生に対し部活動週間を設ける。全新生が一定期間、事前に登録した部活動に仮入部し、上級生との人間関係を作ることで、加入率をアップさせる。(体験入部を2日間放課後に実施する。)
 - ② 生徒に魅力あるクラブ活動を提供できるよう、教員が専門的知識の習得とスキルアップに努める。さらに体罰防止講習を実施する。
- * 生徒の部活動加入率を次年度には50%まで引き上げる(平成26年度は40%)

3 中退防止の推進

(1) 1、確かな学力の育成 ・ 2、子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみに係る取り組みを実践することで、留年者・中途退学者数を30%減少させる。

4 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり。

(1) 入学時のオリエンテーションの内容を見直し、生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。

- ① 学校教育と家庭教育の連携を深め、保護者からの相談を積極的に受け入れる。また、学校からはさまざまな指導の協力を要請する。
- ② カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立った指導を展開する。家庭との連携をとりながら生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。
- ③ 在籍生徒の出身中学校に年2回以上の学校訪問を行い、中学校との連携をよりいっそう密接に行う。生徒指導においては中学校教員の協力を得ながら、人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。

* 学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」の項目を今後2年間で80%以上に引き上げる。

(2) 学校ホームページの充実を図り、学校情報の発信を強化することで、学校の信頼を高め、必要とされている学校という自信を生徒に持たせる。

- ① 広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校公開講座・楽習室(本校オリジナル名称)の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。

(3) 3年間を通じた計画的なキャリア教育を構築し、自らの手で将来を切り開く目と力を養い育成する。また、大阪中小企業家同友会と連携した取り組みを行う。 * キャリア教育において外部人材の登用回数と資格取得の機会を増やす。

5 学校運営体制の確立と教職員の資質向上。

- (1) 校長のリーダーシップのもと、校内組織の改編に取り組み、教育活動全般の改革を推進する。

- (2) 教職員の資質向上を図るため日常的なOJTの推進と校内研修の活性化を行う。(メンター研修の導入)
- (3) ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。
- (4) 全校一斉教職員研修を実施する。(教職員全員で他府県の先駆的な取り組みまたは(5)の実現のため学ぶ機会を設ける。創立記念日を活用する)
- (5) 外国籍生徒を受け入れるにあたり、「高校における帰国・渡日生徒の日本語指導に向けた受け入れマニュアル」を参考に日本語指導のみならず他の教科についての指導法や評価について支援コーディネーターを中心に教員全体の理解と資質向上をめざす。また、外国籍生徒の学力保障のため入り込み授業を実施し、外部関係機関や外部人材の協力を得る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 7 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|---|--|
| <p>注・設問の%について、アンケート上で肯定的評価を得たものの合計数値</p> <p>【生徒指導】 生徒、保護者の意見から「身だしなみ」についての指導をして欲しいという意見が多数見受けられた。頭髪指導について一定の評価を得ていることから更に一步進んだ身だしなみへの意識の高まりではないかと考える。将来的な進路指導につながるための服装、アクセサリ等の指導をしていく必要があると考える。 * 保護者・生徒の自由記述欄に拠る</p> <p>【進路指導】 進路実現に向けた授業について、生徒や保護者は評価している。基礎力診断テストや漢字検定の実施など進路実現に向けての下地が出来つつあり継続的に実施し入学時から進路を意識した指導をすることが望ましい。 * 保護者設問 11「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」(H26 75%→H27 60%)、教員設問 4「生徒一人ひとりが興味・関心に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」(H26 63%→H27 65%)、生徒全体設問 13「ホームルームなどで将来の進路や生き方について考える機会がある」(H26 51%→H27 56%)</p> <p>【学校環境】 年々校内の環境についての評価が下降している。抜本的な清掃活動の転換をはかる時期がきている。考査終了時の大掃除や分担の見直しなど学校全体で取り組むことが大事である。 * 生徒全体設問 7「掃除がいきとどいており、校内はきれいに保たれている」(H26 34%→H27 26%)</p> <p>【部活動】 部活動体験などを実施し生徒への加入を進めているがなかなか定着していない現状がある。保護者からも部活動への参加を希望する意見もあり、数値も下降している。教員の負担等も考慮にいれながら活性化するような指導をおこなうべきである。 * 保護者設問 9「この学校の部活動・生徒会活動は活発であると思われる」(H26 48%→H27 37%)、生徒全体設問 5「授業や部活動での活動を通して、地域の人々や他の学校とかかわる機会が多い」(H26 25%→H27 20%)</p> <p>【授業】 教員の創意工夫が多くみられる。授業を「興味のあるもの」から「学びたいもの」に意識を変える為に教員の研修や勉強会などの環境を整えるようにしたい。 * 保護者設問 10「子どもは、授業が分かりやすく楽しいと言っている」(H26 52%→H27 48%)、教員設問 10「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている」(H26 43%→H27 55%)・11「学校内で他の教員の授業を見学する機会がある」(H26 46%→H27 70%)、生徒全体設問 4「授業はわかりやすく楽しい」(H26 44%→H27 42%)・11「教え方にさまざまな工夫をしている先生が多い」(H26 59%→H27 59%)・12「DVDなどの視聴覚機器やコンピュータを活用した授業が行われている」(H26 32%→H27 52%)</p> <p>【人権】 SNSなどのネットトラブルが学校内外で多発する昨今、授業だけでなく日常における指導体制も必要であると考え。保護者、生徒の評価も下降しているのはその不安の表れとも読み取ることが出来る。 * 保護者設問 12「学校は、命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」(H26 71%→H27 58%)、教員設問 7「体罰やセクシャル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」(H26 61%→H27 59%)、生徒全体設問 9「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会が多い」(H26 42%→H27 40%)</p> <p>【学校行事】 生徒の活動において、文化祭など自主的に企画、運営、活動をする生徒が増えている一方でガイドラインをきちんと設定し指導していきたい。学校</p> | <p>●第1回学校協議会【平成 27 年 6 月 18 日】 (生徒指導部) 遅刻の指導と増減について、システムを変更し厳しくする一方で学校に来る意義を感じさせる指導をおこなっている。 中途退学者の現状について、家庭環境の大きな変化により高校に入学後転退学することが多い。中学校と密な連携をとっていきたい。 (教員育成) 若手が増える中でベテランの存在がとても大事になっている、学校文化の継承をしてもらうためにも若手とベテランの交流が必要と感じている。 (外国籍生徒の対応) 国語総合の時間を日本語に変更し授業をおこなっている。通訳はボランティアの大学生・大学院生 3 名で適宜対応。 (進路指導) 就職志望の増加の原因について、奨学金を返却するリスクを説明し進路指導をするなかで現実的な就職を希望する生徒が増えている。短大、専門学校もすすめているが動きは小さい。就職志望者が多いため今年是全国の就職採用情報の収集をおこなっている。 経済的背景もあるがその先にある将来的なビジョンを見据えた進路指導が重要。成功体験などを伝えるような指導をおこなう。 (18歳選挙権学習) 現在の二年生が該当する。きちんと参政権の意味を伝えるための学習をおこなう予定。 (その他委員より要望) ・通学路のマナーについて、より一層指導をしてほしい。 ・文化祭について地域の中学校の運動会と重なってしまい、中学生が見学に来ることが出来ない。事前に確認して近隣の中学校との日程調整をしてもらいたい。 ・協議会の資料を事前に配付してほしい。 ・改革に向けての流れがよく分かる。事務局の先生をはじめ、現場の先生方のご苦勞がうかがえる。その中で課題も出てくるだろうが、細心の注意をはらっていただきたい。</p> <p>●第2回学校協議会【平成 27 年 10 月 15 日】 ①平成 27 年度学校教育自己診断結果について (自由記述コメントについて) はっきり開示してもらうことはよかったと思う。校則厳格化について生徒本人も理解している上での違反の場合もある、ある程度ルールを作っていくべきではないか。コメントの中には学校に来てよかったという生徒がいる。楽しく学校に来てもらうことも大事だと思う。 (保護者の回答率が少ないことについて) 学校の連絡は生徒を通じて行っている。保護者まで渡っていないこともある。メール連絡網などをもっと活用していきたい。学校としても生徒や保護者に向けた連絡をこまめに行う。 (保護者への学校行事の参加について) アンケートの郵送、公開授業の活性化を含め、学校、保護者、地域の連携を重視すべき。校内研修において PTA も参加できるようにする。現在 PTA 主催の文化祭活動、進路体験談などを企画し実施しているが保護者も忙しくなかなか参加できない状況が続いている。プリントなど連絡しているが思うようにいかないのが課題である。 (校内美化について) 下足室・トイレの環境が酷い点については、学校全体で早急に対応する。 (緊急対応について) 緊急対応マニュアルは校内共有 PC に保存して閲覧可能となっている。全体周知を図る。 (現在 3 年生の進路について) 就職志望の生徒について、40 期は 4 月当初は 100 名近い生徒が就職志望であったが、実際応募前見学などをする中で 60 人強が応募、受験をしている。現在内定 40 名程度となっている。ただ課題として就職後短い間での離職が高くなりつつある。</p> |

府立長野北高等学校

行事を自主的に楽しく活動するために学校全体で取り組むことが大事だと考える。

* 保護者設問9「この学校の部活動・生徒会活動は活発であると思われる」(H26 48%→H27 37%)、生徒全体5「授業や部活動での活動を通して、地域の人々や他の学校とかかわる機会が多い」(H26 25%→H27 20%)

(体育のプール、長距離の授業の指導について)

授業前後のフォローが大事。授業のバランスも鑑み、見学の申し出については優先する。ただ見学をどのように減らしていくかが課題。

(その他意見)

・中学校でも自己診断アンケートを実施している。生徒の学校に対する気持ちも様々なので学校として分析して公表、課題を見つけ対応策を発表、実践することが重要だと考える。学校としてまず協議会の場で検討し今回のような校内美化や、教員について、学力向上の施策の改善を図りたい。報告連絡相談できる環境が難しく、教員が広く意見を出すことのできる場の設定をしなければいけない。若手とベテランの交流や、教科のバランスの問題もあり、解決には時間も必要。

・生徒の評価と教員の評価が伴っていないことは残念。アンケートの内容の追加・変更をすることの提案について、評価の乖離する部分もあるが、現在授業改善を教頭、若手教員を中心に実践している。生徒参画型の新たな学びを研究し行っている。設問についても検討する。

・無断のバイク通学、通学路の喫煙などマナーの悪い生徒の指導について、地域の方からのお叱りや情報の提供を承っている。定期的に見回りを行っているがもっと頻繁に行いたい。地域の健全育成の方との朝の見回りもしていきたい。バイクなどの迷惑行為については警察への通報も願う。

②授業アンケートについて

・現在の授業について、先生方の工夫はここ数年とても進んでいる。理科については ICT の活用、アクティブラーニングの実践など行っている。数学は少人数展開を実施している。課題もあり、複数担当の人員増加を求めたい。人員については高校大学連携における大学生のスタッフの導入など計画中である。

・学習意欲の低い生徒、低学力と言われる生徒への今後の対応を考えてほしい。トイレの美化の話題も出たが、生徒とともに学校全体での美化活動をすべきだと考える。

●第3回学校協議会【平成28年1月14日】

Q：進捗状況から、授業改善の努力をしてくれていると感じる。ICTの活用については専門家を呼んだりして、全体の指導が大事。

A：授業全てがICTを活用しているわけではないが、時と場合に合わせた活用を実践していくかが課題。

Q：中退者の増加について中学校でもキャリア教育が必要。中退者の特徴を教えてください。

A：家庭内の問題が学校生活で表面化してきている。(DV、ネグレクトなど) 集団生活になじめない生徒が進路変更を早くするようになった。学校とのコミュニケーションが困難な保護者も増えつつあるのが近年の特徴である。家庭へのフォローを中学校や地域と連携していきたい。

Q：(本校の遅刻ポイント制の説明を踏まえ)遅刻してはいけない意義を担当が教えることが大事。担任が前面に出て、生徒指導部の先生方はその後ろだてとなる連携をするべきでは。

A：自立を促すためにも、学校、保護者も生徒と共に人間教育をおこなっていききたい。そのために朝学習を含めカリキュラムを変えるようにしていく。

Q：就職後の離職率について

A：1年以内の3分の1が離職している。定着しない生徒への指導、事前のミスマッチの回避などの指導をすすめていく。

Q：英語の習熟度別のクラス変更における生徒の感想など

A：習熟度別なのでレベルの上下はある。4月当初は説明のうえ、希望制で分けた。人数の調整にのみ入試の点数を参考にした。2学期以降、応用クラスへの引き上げは10名程度、逆に引き下げはなかった。引き上げた生徒は成績も上がり、やる気がでてきている。ただ、生徒がグループ分けを気にしていることが気がかりである。

Q：3学期もクラスの変更はないのか。子どもが前のクラスに戻りたいと言っている。先生と折りが合わないらしい。

A：検討は可能。クラスに戻りたい理由が「授業内容」なのか「教員との関わり」なのかにもよる。授業アンケートなども参考にしたい。

Q：いじめによる退学も他校含め増えてきているが、学校としてどのように捉えているか。

| | |
|--|--|
| | <p>A：従来からあるいじめのとりえ方では対応も出来ないことがあり、認識を改めなければならない。その時の状況、SNSでの文言ひとつでとりえ方も色々ある。勝手な判断ではなくルール、ガイドラインに則ってきちんと対応していく。我が校としても危機感をもっている。</p> <p>Q：スクールカウンセラーの活動について、PTAの保護者より相談できる機会を作って欲しい又は知らせて欲しいとのこと。配慮は可能か。</p> <p>A：学校メールで周知してもらうようにまず行う。次年度以降はHP等にも載せるようにしたい。</p> <p>③ <u>学校教育自己診断の分析について</u></p> <p>校長より、運営委員会でも分析を進めている。学校美化については校舎などのハードの部分と清掃活動のソフトの部分に分け、ソフト面において教員生徒全員参加の活動の施策をおこなうと説明。</p> <p>教頭より、保護者の行事参加について見直しをしていくことを説明。HPやメールなどの周知と保護者参加型の行事を企画していく予定と説明。</p> <p>Q：学校の広報方法に課題があるのではないか。担当が十分な説明、アナウンスできる環境作りを。</p> <p>A：授業参観など、校内の見学するスタイルなど内容の変更も考えている。中学3年生向けの学校説明会も今年日曜日に実施したら多くの参加をしてもらえた。日時設定も考慮すべき。</p> <p>Q：部活動加入率は。</p> <p>A：全体で3割程度。書道部や陸上部など活発な部活もあり、活性化していきたい。</p> |
|--|--|

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|----------|-------------------|--|--|--|
| 確かな学力の育成 | (1) 生徒の基礎学力を向上させる | ①教科での公開授業を定期的に行い、「分る授業」「楽しい授業」の定着をめざし、教員相互で授業力向上を図る。 | ① 授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度を75%以上にする。 | ①授業アンケートの「授業中は集中して先生の話聞き学習に取り組んでいる」や「授業に興味・関心を持つことができた」の項目における満足度はそれぞれ84%、74%であった。ICTを使ったり、協同学習の形態を取り入れたり、生徒の学びが大きくなる手立てを取り入れた成果だと思われる。一部の教員だけでなく、人間関係作りも取り入れながら全体で取り組みたい。(◎) ②プロジェクターを新たに購入し、iPad等のICTを利用した授業が増えてきているが、「授業は分かりやすく楽しい」の満足度は42%で昨年度並みであった(H26年44%)さらなる教材の工夫、研究が必要である。(△) ③実験・実習の機会についての満足度は42%であった。(H26 42%)今後も体験学習、プレゼンテーションの機会を各教科、総合学習等で設けていく。(△) ④2学期は土曜日に設けたが、保護者の参加が約20名と少なかった。行事とセットで行うなど再考が必要である。(△) |
| | | ②従来行っていた「数学」、「英語」、「体育」での少人数授業を実施し「数学」、「英語」においては、さらに踏み込んで習熟度別授業で学力レベルに合った授業を行う。 | ② 学校教育自己診断における「授業は分かりやすく楽しい」の項目を75%以上にする。 | |
| | | ③実験・実習を授業の中に多く取り入れその成果などを発表する機会を設ける。 | ③ 実験・実習の機会がある」を50%以上にする。 | |
| | | ④保護者向けの授業公開期間を学期に一度設定し、参加者の増加を図る。 | ④ 保護者の参加者数を50名以上にする。 | |

| | | | | |
|---------------------------|---|--|--|---|
| <p>規律・規範の確立と豊かな心のはぐくむ</p> | <p>(1) 生徒の規範意識を高め、社会人として活躍できる人材を育成する。</p> | <p>① 地域と連携したボランティア活動（クリーンキャンペーン年間3回、あいさつ運動年間3回）を実施する。 ② 遅刻指導の方法を一部見直し、生徒に自ら時間を守ることの大切さを考えさせる。 ③ 通学時の安全確保のため、全教員で当番を組み、毎日の校外で自転車指導を行う。 ④ 部活動の活性化のために体験クラブの機会を増やすとともに外部指導者の招聘を行う。 ⑤ 「シチズン教育」の導入。国民・市民としての義務と権利について3年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。 ⑥ 「郷土学」の導入。南河内の自然・文化・歴史を学び郷土愛を向上させる。3年間で総合学習の中で系統的に学ばせ生徒の規範意識の醸成と地域交流の継続と発展をめざす。</p> | <p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者数を150名にする。 クリーンキャンペーン参加者数を70名にする。 ② 遅刻者数20%減をさらに継続する。 ③ 通学状況について学校協議会の地域代表者等から評価していただく。 ④ 「部活動、生徒会活動が活発である」を50%以上にする。 ⑤ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度70%以上を目標値とする。 ⑥ 学校教育自己診断において本校独自の設問を設定し、満足度70%以上を目標値とする。</p> | <p>① 千代田駅前でのあいさつ運動参加者60名。2学期は行事と重なり参加できなかった。クリーンキャンペーン参加者数47名。生徒達は地域連携の重要さや充実感を実感している。(△) ② 8865件(H26 9158件)遅刻者数は3、2%減少している。さらに減らすための方策の再検討が必要である。(△) ③ 生徒指導部教員中心に毎朝、正門、西門に立ち生徒とコミュニケーションを持つとともに、服装、挨拶、自転車指導等生活規律の改善を図った。地域への信頼が向上していると評価を頂いている。(◎) ④ 「部活動、生徒会活動が活発である」は37%であり減少傾向。体験入部も1回だけでなく、2学期にも設けるなど、回数や実施形態の工夫が必要である。(H26 48%) (△) ⑤ 事後のレポート作成等の振り返りを通じて義務、権利意識を考察させている。地域の行事等への参加者が年々増加してきている。また、政治的教養を育む教育については3学期始業式後全学年へ校長講話を実施。(○) ⑥ 各学年で地域学習を実施した。昨年度は3学年のみの実施であったが、今年度は1、3年生でフィールドワークを実施することによって地域の歴史、風土、文化の素晴らしさを再確認できた。来年度からは全学年で取り組む予定である。(◎)</p> |
| <p>中退防止の推進</p> | <p>(1) 生徒が生き生きと学び夢が実現する学校づくり。</p> | <p>① 家庭との連携を強化する。連絡は電話や手紙に加えて可能な限り対面式とする。生徒指導以外でも積極的に家庭訪問を実施し、保護者との人間関係を構築する。 ② 担任と副担任が協力して生徒の状況把握に努め、小さな変化も見落とさず、変化があれば面談をし、その後教員がチームを組んで指導する。 ③ 学校訪問で在籍生徒の情報を伝え、指導上の協力を要請する。 ④ 生徒の学習面での不安を除くために、学び直しの補習や講習を内容・回数ともに充実させる。 ⑤ 生徒の自尊感情を高め、自信をつけさせるために、総合的な学習の時間等を利用し、漢検・英検・数検などの資格取得を支援する。</p> | <p>① 家庭訪問を年2回は実施する。学校教育自己診断の「学校に行くのが楽しい」の項目を70%に引き上げる。(H26は62%) ② 定期的な生徒の情報交換会を実施する。(年間6回以上) ③ 三者懇談会を年3回以上行う。 ④ 業者テストを導入し、その指標を基に生徒の学習状況を把握、その上で補習内容や回数を充実させていく。 ⑤ 漢検・英検・数検の合格者120名をめざす。 ⑥ 中途退者数10%減をめざす。</p> | <p>① 「学校に行くのが楽しい」の満足度は59%であった。生徒指導以外での家庭訪問が減少傾向にある。(H26 62%) (△) ② 生徒の情報交換会を10回実施した。(◎) ③ 3者懇談会は1、2学期途中、学期末に各1回実施した。(4回) (◎) ④ 業者テストの回数を1年生で2回に増やした。結果を踏まえた研修を3学期に実施予定。定点観測を継続し、生徒の実態把握に役立てたい。(◎) ⑤ 漢検・英検・数検の合格者が12名(英検2名、漢検10名、数検0名:12月末現在)(H26 英検2名、漢検48名、数検0名)であった。放課後等での補習を継続して行い、生徒の意識を向上させる工夫が必要である。(△) ⑥ 今年度中退者数はH26年5名(1年3名、2年2名、3年0名)H27年10名(1年8名、2年0名、3年2名)(△)</p> |

府立長野北高等学校

| | | | | |
|-------------------------|-------------------------------------|---|--|--|
| 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり | (1) 生徒が生き生きと学び夢が実現する学校であることをアピールする。 | ① カウンセリングマインドを持ち、生徒の立場に立ち、生徒の自立を助け、正しい規範意識を身に付けた社会人の育成を行う。 ② 指導上悩みを抱えた生徒の情報を、出身中学校にも情報を提供し、また情報収集しながら、生徒の人間関係作り・自らの生き方を考える取り組みを推進する。 ③ 河内長野市及び隣接の富田林市・大阪狭山の中学校訪問回数を増やし、連携強化を図る。 ④ 広報活動の中心組織を設置し、学校説明会・学校開放講座・楽習室の充実をはかり、開かれた学校づくりに努める。 ⑤ 携帯連絡網を新たに構築し、リアルタイムな情報提供を努める。 ⑥ ⑤の情報提供網を駆使し、HPも活用した進路情報の提供を行う。 ⑦ 教職員間の信頼関係向上のため不定期に開催されていた「担任会」を廃止、定期的な「学年会」(最低週1回開催)を創設し、課題や情報の共有と理解を浸透させる。 ⑧ 生徒の多様な進路希望に対応するため特進コース・看護医療コース・郷土市民コース(以上仮名)なるものの設置に向けた検討委員会を開設する。 | ① 相談室の利用者数 10%増加(H26は33名)と生徒指導の懲戒件数 10%減少をめざす。(H26は20件) ② 近隣3市の中学校訪問回数を学期に一度行う。(H26は155回) ③ 学校教育自己診断の「学校からの教育情報提供」の項目の満足度 90%をめざす。(H26は76%) ④ 学校説明会を年3回実施する。その中で、体験授業・体験クラブを導入する。年間2回行っている楽習室の講師を、校外にも求め参加者200名をめざす。(H26は188名) ⑤ 学校教育自己診断における「保護者への情報提供」の項目で、満足度を85%以上にする。(H26は61%) ⑥ 「進路を含めたきめ細かい情報提供」の満足度を70%にする。(H26は63%) ⑦ 「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を満足度60%以上にする。(H26は26%) ⑧ 27年度完成をさせる。 | 相談室の利用者数は35%増加(H27は51名)生徒指導懲戒件数は20件から23件(33名)で微増。(△) ②訪問中学校を精査し、毎学期中学校訪問(H27 109回)を行った。昨年度同様中退防止と広報活動を兼ねた連携強化を今後も推進していく。(◎) ③「学校からの教育情報提供」の満足度は減少(64%)した。保護者のニーズにあった情報提供をもっと心がける必要がある。(△) ④オープンスクール1回、学校説明会を4回実施した。授業見学を行った。小学生対象の楽習室の実施は1回のみで参加者は20名であった。中学生へのアプローチが必要である(H26は2回実施し188名)(△) ⑤「保護者への情報提供」については満足度は59%であった。携帯連絡網をもっと活用するなど担当教員の意識改革が必要である。(H26 61%)(△) ⑥「進路を含めたきめ細かい情報提供」の満足度は65%であり上昇傾向であり、少しずつ成果が出てきている。(H26 63%)(△) ⑦ 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」の満足度は37%であり昨年度よりは上昇しているが、日頃のコミュニケーションがもっととれるよう、当番や体制の見直しが必要である。(△) ⑧ 運営委員会で最終の詰めを行っている。コース制や朝学習を導入し、学習面での改革を行う。(◎) |
|-------------------------|-------------------------------------|---|--|--|